

**令和7年度
痴漢被害実態把握調査
報告書概要版**



調査実施要項

■ 調査目的

- 痴漢は車両内や駅構内など公共空間での発生が多く、加害者との面識がない割合が高いことから被害の申告をためらう暗数化しやすい犯罪である。
- そこで、若年層を中心に都内の痴漢被害の実態及びその傾向を継続調査し、調査結果を踏まえて痴漢被害をなくするための具体的な対策に反映する。
- 令和5年度は、初の大規模調査として被害実態を把握するため生涯経験を中心に調査を実施したが、継続的に経年変化を把握するため、令和6、7年度はここ1年の被害状況を中心に調査を実施。

■ 痴漢の定義

- 迷惑防止条例で禁止される下記等の行為。

禁止される行為	内容
痴漢行為 (5条1項1号)	衣服その他の身に着ける物の上から又は直接に人の身体に触れること。 ・ 体を触られた ・ ボタン等を外された ・ 体を密着された ・ 髪に触られた
卑わいな言動 (5条1項3号) の一部	社会通念上、性的道義観念に反する下品でみだらな言語又は動作。 ・ 匂いをかがれた ・ 息を吹きかけられた ・ カバン等を押し付けられた ・ AirDrop等で画像を送られた・見せられた

※盗撮行為（5条1項2号）は対象外。

■ 調査方法

- WEBアンケート調査

調査実施要項

■ WEBアンケート調査

- 【目的】若年層を中心に都内の痴漢被害の実態及び傾向の把握
- 【実地方法】オンラインアンケート
- 【対象】スクリーニング調査：一都三県在住の16～69歳の方
- 【実施期間】2025年8月1日～8月27日

(1) 被害者調査

- 【対象】東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする16～39歳の方で、直近1年間に電車内、駅構内で痴漢にあったことがある方
- 1,007名（16～24歳 電車内478名、駅構内24名）
（25～39歳 電車内475名、駅構内30名）

(2) 第三者調査

- 【対象】東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする16～69歳の方で、直近1年間に電車内、駅構内で痴漢を目撃または痴漢の現場に居合わせたことのある方
- 754名（電車内692名、駅構内62名）

調査実施要項

(3) 共通調査

- 被害者（1007名）
- 第三者（754名）
- 痴漢被害経験及び痴漢目撃経験無しの方（1073名）

※痴漢被害経験及び痴漢目撃経験無しの方のみ性別、年代別に、人口統計に準じた回答比率となるように割付

割付

年代	男性	女性	合計
～19歳	50	50	100
20-29歳	90	90	180
30-39歳	90	90	180
40-49歳	90	90	180
50-59歳	90	90	180
60-69歳	90	90	180
合計	500	500	1000

有効回収数

年代	男性	女性	ノンバイナリー	合計
～19歳	60	50	4	114
20-29歳	90	93	9	192
30-39歳	94	91	7	192
40-49歳	94	90	-	184
50-59歳	98	98	2	198
60-69歳	101	92	-	193
合計	537	514	22	1073

■ 調査実施機関

- 株式会社イード

痴漢被害・目撃経験①

■ 痴漢被害経験（生涯経験）

場所を問わない被害率は39.7%、電車関連は37.2%となり、昨年度調査より微増。

- 東京都在住および東京都へ通勤・通学する16～69歳の方のうち、生涯で痴漢被害を経験した（「ある」、「確証はないがおそらくある」との回答の和）方の比率（＝痴漢被害率）は、39.7%となった。（SC13）
- そのうち、電車に関連して生じている被害（電車内もしくは／及び駅構内での被害）の被害率は37.2%となる。（SC14）
- いずれも、昨年度調査と比較して微増している。

生涯の痴漢被害率（被害場所は複数回答）

【%】

被害場所	被害率	
	R6調査	R7調査
n数	6,315	11,959
痴漢被害（場所を問わず）	39.0%	39.7%
A.電車内	35.3%	36.1%
B.駅構内	3.7%	4.4%
C.電車関連（A and/or B）	36.2%	37.2%
D.バス内	2.1%	2.1%
E.路上	5.5%	5.9%
F.商業施設・店舗	2.2%	2.4%
G.その他	0.4%	0.6%

【n数】

被害場所	被害数	
	R6調査	R7調査
n数	6,315	11,959
痴漢被害（場所を問わず）	2,460	4,752
A.電車内	2,231	4,321
B.駅構内	231	526
C.電車関連（A and/or B）	2,289	4,444
D.バス内	133	251
E.路上	349	704
F.商業施設・店舗	139	290
G.その他	27	66

痴漢被害・目撃経験②

■ 痴漢被害経験（ここ1年）

場所を問わない被害率は13.5%、電車関連は12.9%となり、昨年度調査より増加

- ここ1年間の被害に絞ると、痴漢被害を経験した（「ある」、「確証はないがおそらくある」との回答の和）方の比率（＝痴漢被害率）は、13.5%となった。（SC13）
- そのうち、電車に関連して生じている被害（電車内もしくは／及び駅構内での被害）の被害率は12.9%となる。（SC14）
- いずれも、昨年度調査と比較して増加している。

ここ1年の痴漢被害率（被害場所は複数回答）

【%】

被害場所	被害率	
	R6調査	R7調査
n数	6,315	11,959
痴漢被害（場所を問わず）	13.1%	13.5%
A.電車内	12.0%	12.2%
B.駅構内	1.6%	1.9%
C.電車関連（A and/or B）	12.4%	12.9%
D.バス内	1.0%	0.9%
E.路上	0.8%	0.9%
F.商業施設・店舗	0.4%	0.5%
G.その他	0.1%	0.1%

【n数】

被害場所	被害数	
	R6調査	R7調査
n数	6,315	11,959
痴漢被害（場所を問わず）	830	1,615
A.電車内	760	1,462
B.駅構内	98	232
C.電車関連（A and/or B）	785	1,537
D.バス内	61	106
E.路上	49	103
F.商業施設・店舗	24	62
G.その他	6	11

痴漢被害・目撃経験③

■ 電車内・駅構内での痴漢被害経験（生涯経験：全体）

被害率は37.2%（女性54.3%、男性15.1%）となった。

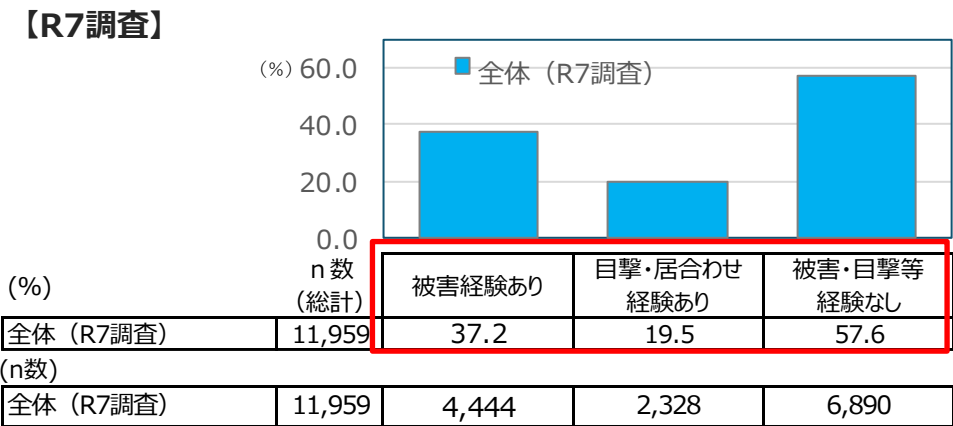
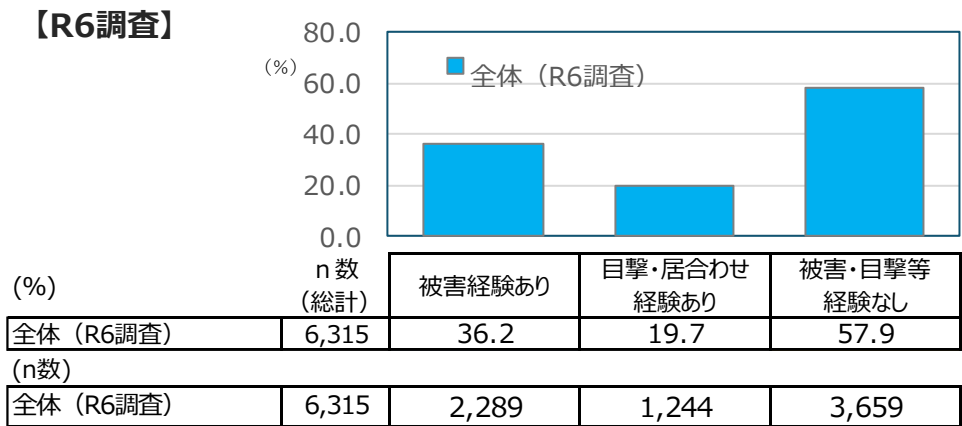
- 電車内・駅構内での痴漢被害率（生涯経験率）は37.2%となり、昨年度調査より微増している。（SC13）

■ 電車内・駅構内での痴漢目撃・居合わせ経験（生涯経験：全体）

目撃・居合わせ経験率は19.5%となり、昨年度調査より微減

- 電車内・駅構内での痴漢目撃・居合わせ率（生涯経験率）は19.5%となり、昨年度調査より微減している。（SC16）

電車内・駅構内の痴漢被害経験および目撃・居合わせ経験（複数回答）



※被害経験、目撃・居合わせ経験の双方にあった方がいるため、全体を足して100%とはならない。

痴漢被害・目撃経験④

電車内・駅構内での痴漢被害経験（生涯経験：性・性自認別、年代別）

- 性・性自認別では、被害の多くは女性であり、女性に絞ると被害率は54.3%まで上昇する。一方、男性15.1%、ノンバイナリー／Xジェンダー36.0%の被害率となっており、痴漢被害は女性だけに限るものではない。女性、男性については、昨年度調査より微減している。（SC1・SC13）
- 年代別では、20代～40代で4割前後と多く、10代、50代以上で2～3割となっており、多くの年代で痴漢を経験してきたことがうかがえる。（ここ1年に絞ると20代前半の増加が目立つ）（SC2・SC13）

電車内・駅構内での痴漢目撃・居合わせ経験（生涯経験：性・性自認別、年代別）

- また、目撃・居合わせ率は、性・性自認別、年代別に大きな差がない。（SC1・SC16、SC2・SC16）

電車内・駅構内の痴漢被害経験および目撃・居合わせ経験（複数回答）

【R6調査】				
(%)	n 数 (総計)	被害経験あり	目撃・居合わせ 経験あり	被害・目撃等 経験なし
全体（R6調査）	6,315	36.2	19.7	57.9
男性	3,070	15.2	19.6	74.5
女性	3,216	56.3	19.8	42.1
ノンバイナリー／Xジェンダー	28	35.7	17.9	57.1
その他	1	100.0	-	-
19歳以下	517	29.4	13.7	66.2
20～24歳	813	42.3	23.7	52.9
25～29歳	973	42.4	23.2	53.5
30～34歳	940	36.6	20.9	58.3
35～39歳	1,068	37.7	20.5	56.0
40～44歳	324	40.4	16.7	54.9
45～49歳	369	40.9	18.2	53.7
50～54歳	431	30.4	15.3	62.2
55～59歳	398	26.1	19.6	63.3
60～64歳	311	25.1	15.4	66.6
65歳以上	171	22.2	15.2	68.4

【R7調査】				
(%)	n 数 (総計)	被害経験あり	目撃・居合わせ 経験あり	被害・目撃等 経験なし
全体（R7調査）	11,959	37.2	19.5	57.6
男性	5,211	15.1	19.6	75.3
女性	6,695	54.3	19.4	43.8
ノンバイナリー／Xジェンダー	50	36.0	12.0	62.0
その他	3	33.3	33.3	66.7
19歳以下	735	32.5	13.7	64.5
20～24歳	1,413	45.4	23.8	50.7
25～29歳	1,933	42.5	21.9	54.2
30～34歳	1,972	37.3	20.9	57.4
35～39歳	1,996	35.2	19.0	59.4
40～44歳	572	42.3	22.9	51.7
45～49歳	629	40.7	19.4	53.7
50～54歳	851	31.5	15.0	61.6
55～59歳	832	32.1	15.5	61.4
60～64歳	635	27.7	15.3	63.9
65歳以上	391	24.6	17.6	66.8

※全体比 +10pt以上(=■) +5pt以上(=■) -5pt以下(=■) -10pt以下(=■)

※被害経験、目撃・居合わせ経験の双方にあった方がいるため、全体を足して100%とはならない。

痴漢被害・目撃経験④(n数)

電車内・駅構内の痴漢被害経験および目撃・居合わせ経験（複数回答）

【R6調査】

(n数)	n 数 (総計)	被害経験あり	目撃・居合わせ 経験あり	被害・目撃等 経験なし
全体（R6調査）	6,315	2,289	1,244	3,659
男性	3,070	468	602	2,288
女性	3,216	1,810	637	1,355
ノンバイナリー/Xジェンダー	28	10	5	16
その他	1	1	-	-
19歳以下	517	152	71	342
20～24歳	813	344	193	430
25～29歳	973	413	226	521
30～34歳	940	344	196	548
35～39歳	1,068	403	219	598
40～44歳	324	131	54	178
45～49歳	369	151	67	198
50～54歳	431	131	66	268
55～59歳	398	104	78	252
60～64歳	311	78	48	207
65歳以上	171	38	26	117

【R7調査】

(n数)	n 数 (総計)	被害経験あり	目撃・居合わせ 経験あり	被害・目撃等 経験なし
全体（R7調査）	11,959	4,444	2,328	6,890
男性	5,211	787	1,020	3,923
女性	6,695	3,638	1,301	2,934
ノンバイナリー/Xジェンダー	50	18	6	31
その他	3	1	1	2
19歳以下	735	239	101	474
20～24歳	1,413	642	336	716
25～29歳	1,933	821	424	1,047
30～34歳	1,972	735	412	1,132
35～39歳	1,996	702	379	1,185
40～44歳	572	242	131	296
45～49歳	629	256	122	338
50～54歳	851	268	128	524
55～59歳	832	267	129	511
60～64歳	635	176	97	406
65歳以上	391	96	69	261

※被害経験、目撃・居合わせ経験の双方にあった方がいるため、全体を足して100%とはならない。

痴漢被害の実態①

■ 痴漢被害にあいやすい状況・場所

痴漢被害にあいやすい状況・場所として下記の傾向が確認された。

- 昨年度調査時から依然として、朝のラッシュ時に混雑した電車内で、注意が散漫な状態の乗客が多い場所（特にドア付近）で発生しやすい様子がうかがえる。

項目	課題	
時期	4～5月（新学期・新年度）、3月、7月（軽装になる時期）	（Q5）
時間帯	朝のラッシュ時間帯	（Q6）
混雑状況	混雑状況が高くなるほど被害が多い（身動きできない状況では減少）	（Q8）
車両内の位置	ドア付近および座席の前の通路	（Q10）
その他	スマートフォン使用時が多い	（Q11）

痴漢被害の実態②

■ 痴漢被害の内容

「衣服ごしに/直接体を触られる」、「密着される」が多く、直接接触られる、密着されるは増加。

- 電車内では、「衣服ごしに体を触られた」（56.3%）、「体を密着された」（45.4%）、「衣服の下から体を触られた・手足など体を直接接触された」（20.8%）の順が多い。（Q13）
- 「衣服の下から体を触られた・手足など体を直接接触された」は、昨年度調査より増加しており、より密着度の高い被害が増加している様子がうかがえる。

■ 被害者の心情と対応

電車内では「恐怖」、「驚き」が大半を占め、「我慢した・何もできなかった」が最多。

● 心情

- 電車内では、「怖かった」（47.0%）、「驚いた」（38.9%）、「怒りを感じた・反撃したいと思った」（27.1%）、「身体が動かなかった・声が出なかった」（18.8%）、「逃げたいと思った」（17.3%）の順が多い。（Q18）
- 男性で、「恥ずかしいと思った」がやや多く、「怖かった」は、女性で約半数を占めている。（Q18）
- 駅構内では、「怖かった」（40.7%）、「怒りを感じた・反撃したいと思った」（37.0%）、「驚いた」/「恥ずかしいと思った」（ともに24.1%）の順が多い。（Q18）

● 対応

- 電車内では、「我慢した・何もできなかった」（37.9%）、「逃げた・移動した」（25.5%）、「持ち物でブロックした」（15.6%）、「身体を動かして加害者（痴漢）を止めようとした」（10.6%）の順が多い。（Q16）
- 駅構内では、「逃げた・移動した」（27.8%）、「我慢した・なにもできなかった」/「周囲にアプリを使用して助けを求めた」（ともに24.1%）の順が多い。（Q16）

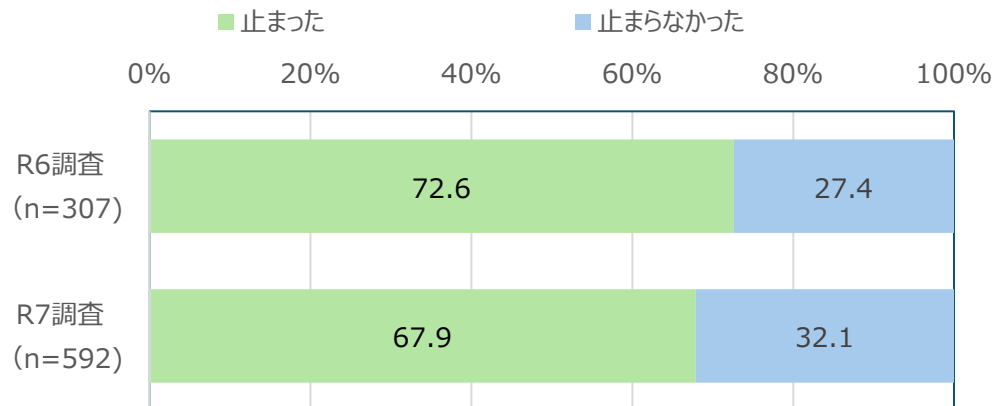
痴漢を止める対応①

■ 痴漢被害にあったときの対応

多くの痴漢は、被害者が対応を取れば止まることが多いが、周囲の助けは必要。

- 電車内では、痴漢行為を被害者がやめさせたケースは2割弱程度で、特に女性に限ると13%程度にとどまる（Q14）。被害者が対応を取った場合には、痴漢が「止まった」とする回答が7割弱に達したが、昨年度調査より減少している。（Q17）
- 駅構内では、回答数が少ないことに留意が必要だが、被害者が対応を取った場合には、痴漢が「止まった」（75.6%）、「止まらなかった」（24.4%）となっている。（Q17）
- 但し、前ページのように「我慢した・何もできなかった」被害者も多く、被害者だけで対処することは難しい。

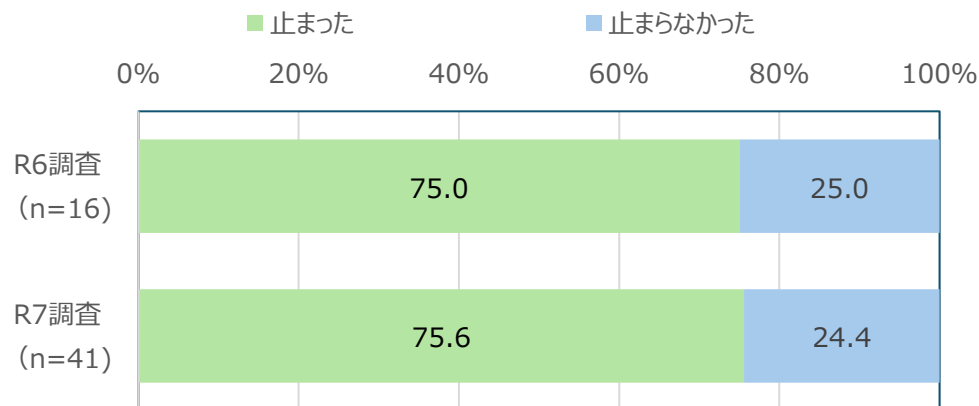
【電車内】



(n数)	総計	止まった	止まらなかった
R6調査	307	223	84
R7調査	592	402	190

Q16で「1 我慢した・なにもできなかった」と回答した方以外

【駅構内】



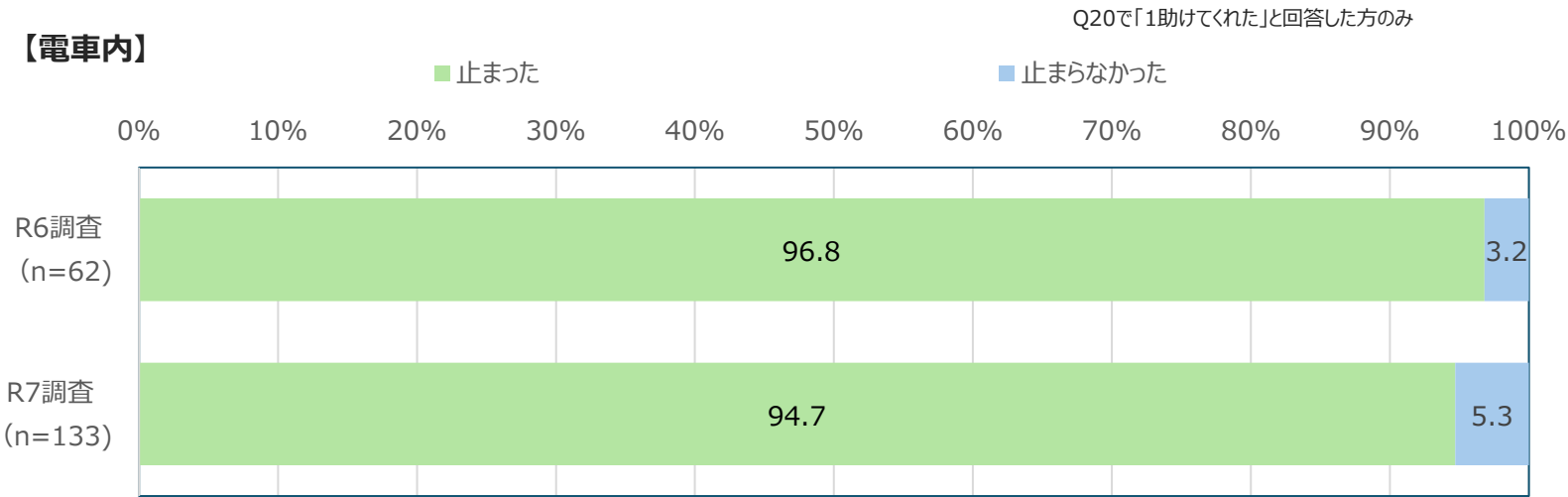
(n数)	総計	止まった	止まらなかった
R6調査	16	12	4
R7調査	41	31	10

痴漢を止める対応②

■ 痴漢被害を目撃した時の対応

多くの痴漢は、第三者が対応を取れば止めることができる。

- 周囲の人が痴漢に気づいたと回答した被害者は電車内で3割弱となり、昨年度調査よりは増加しているが、気づかなかったとの回答も増加がみられた。(Q19)
- 痴漢行為を第三者がやめさせたケースは電車内で1割強にとどまる。(Q14)
- 一方、痴漢行為に気づいた場合に、周囲の人が「助けてくれた」と回答する被害者は5割程度となっており、昨年度調査より「助けてくれなかった」は微減している。(Q20)
- 被害者を助けた方法としては、①直接、加害者の行為を止めた、②加害者と引き離す、③被害者に声をかける等が挙げられた。(Q21)
- 第三者が対応を取った場合に、痴漢が「止まった」とする被害者の回答は94.7%となっており、昨年度調査より減少しているが、9割以上は「止まって」いる。(Q22)



(n数)	総計	止まった	止まらなかった
R6調査	62	60	2
R7調査	133	126	7

痴漢を止める対応③

■「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方と介入行動

「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方の認知率は4割弱にとどまる。

次に痴漢を目撃したら何らかの「行動を取りたい」は半数を占める。

- 「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方の認知度は、全体で38.8%にとどまっているが、昨年度調査と比べて微増している。(SC28)
- また、次に痴漢を目撃したら「行動を取りたい」との回答（「必ず行動を取ると思う」、「行動を取ると思う」との回答の和）は約半数。被害状況別では、被害者兼目撃居合わせで64.9%、目撃・居合わせで63.5%、被害者で60.0%、被害・目撃経験なしで36.1%となっており、被害も目撃も経験無しの方の意識が低い。(Q54)
- 痴漢の被害や、周囲の人が痴漢を防ぐことへの考え方の回答状況から、「痴漢は重大な犯罪である」（70.8%）や「周りの人が助けると被害を止めることができる」（64.9%）ことは多くの人が認識しつつも、「加害者（痴漢）とトラブルになるかもしれない」（65.3%）、「助けた後に、どのような結果になるかが分からない」（62.2%）などの不安を抱いている状況が見られた。(Q53) ※カッコ内の数字は「とてもよくあてはまる」、「よくあてはまる」との回答の和

届け出・連絡状況①

■ 届け出・連絡・相談状況、届け出等しなかった理由

電車内で痴漢被害後の届け出・連絡・相談は5割強。

届け出・連絡・相談をしない理由は「めんどろ」「時間が無い」。

- 痴漢被害を「誰にも連絡などしていない」との回答が、電車内では、被害直後、被害のしばらく後ともに4割半ばとなった。駅構内では、被害直後では2割半ば、被害のしばらく後では3割弱となった。概ね昨年度調査より低くなっている。（Q23）
- 届け出・連絡・相談等をしない2大理由は、電車内では「めんどろだったから」、「時間がなかったから」。朝のラッシュ時等においては、遅刻等できないことが背景に挙げられる。また、男性でさらにその傾向が強い。（Q24）

■ 相談機関への相談状況、相談支援機関の対応状況

相談機関へ相談した被害者は今年度調査でも数%にとどまる。

痴漢被害相談機関の認知状況は「知っているものはない」が今年度調査でも半数以上。

- 相談機関へ相談した被害者は数%と少ない。（但し、駅構内で被害直後は2割弱まで増加している）（Q23）
- 相談しなかった理由として、電車内では「どのような相談機関があるか不明」、「相談機関の連絡先がわからない」との回答が4～6%強程度。（Q24）
- 痴漢被害相談機関の認知状況は、「知っているものはない」が昨年度調査より減少したものの、半数以上を占めており、知っている機関では、「性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター」（21.9%）、「警視庁総合相談センター」（17.9%）、「東京都女性相談支援センター」（12.4%）などとなっている。（Q50）
- また、被害・目撃経験なし者については、知っている機関はないが7割を超える。（Q50）

痴漢撲滅に向けた考え・行動①

■ 痴漢撲滅のために重要なこと

痴漢撲滅に向けて重要だと考える事項として、下記等が挙げられた。

昨年度調査と同様の傾向となっている。（Q56）

- 痴漢は性犯罪という認識を広めること（62.0%）
- 被害者が責められない社会を実現すること（45.5%）
- 痴漢に関する誤った認識を正すこと（38.5%）
- 周囲の人も当事者という認識を広めること（30.9%）

■ 痴漢撲滅に向けた取り組み

痴漢撲滅に向け、効果がありそうな取り組みとして、下記等が挙げられた。

昨年度調査と上位項目は同様となっている（Q59）

- 防犯カメラの設置（63.6%）
- 防犯ブザーの普及（41.8%）
- 届け出・連絡の簡素化・簡略化（30.9%）
- 痴漢の厳罰化（29.5%）
- 匿名で行政の相談窓口連絡・相談（被害時）（25.1%）
- 痴漢撲滅に賛同する人が共通で身に着けるアクセサリー（21.7%）
- 被害・目撃を経験したことがある回答者では、「痴漢撲滅に賛同する人が共通で身に着けるアクセサリー」を効果的と考える回答がやや多かった。
- 被害・目撃経験なしでは、「防犯カメラの設置」、「痴漢の厳罰化」がやや多い。

痴漢撲滅に向けた考え・行動②

■ 被害者の助けとなること

「被害者の助けになると思う行動」、「自分ができそうな行動」は、ともに「駅員に被害を証言する」が最多。

- 「被害者の助けになると思う行動」を聞いたところ、「駅員に被害を証言する」（71.8%）、「加害者（痴漢）と被害者を引き離す」（69.6%）、「加害者（痴漢）の腕をつかむ・はらう」/「駅員を呼ぶ」（ともに67.9%）の順で肯定的回答が多かった。（※肯定的回答＝「とても助けになると思う」、「助けになると思う」との回答の和）（Q57）
- また、被害者では、全体と比較して「とても助けになると思う」比率が相対的に高い。（Q57）
- 「自分ができそうな行動」を聞いたところ、「駅員に被害を証言する」（60.0%）、「駅員を呼ぶ」（55.9%）、「周りに気がついている人がいないか探す」（55.4%）の順で肯定的回答が多かった。（※肯定的回答＝「とてもできそうだと思う」、「できそうだと思う」との回答の和）（Q58）
- 目撃・居合わせ者では、全項目で全体と比較して多くなっている。（Q58）
- 「加害者（痴漢）と被害者を引き離す」や「加害者（痴漢）の腕をつかむ・はらう」については、被害者側からは「助けになる」という回答が多い。一方、目撃・居合わせ者側の「できそうだと思う」という回答では5割強程度となり、痴漢目撃・居合わせ時に何らかの行動をしなかった/出来なかった理由として「痴漢だと確証を持てなかったから」、「加害者（痴漢）が怖かったから」が多くあげられた事からも、ハードルが高い様子がうかがえる。（Q56、Q57、Q42）

静止画(または動画)等の認知状況

■ 痴漢撲滅プロジェクトの静止画（または動画）の認知状況は3割程度にとどまる。

- この静止画（または動画）の認知状況は、全体で「見たことがある」（12.1%）、「見たことがある気がする」（21.2%）と、“見たことがある”とする比率は33.3%となっている。（SC26）
- この静止画（または動画）の認知経路は、全体で「車内モニター（情報・広告を表示するディスプレイ）」（39.6%）、「インターネット広告（X）」（24.0%）、「デジタルサイネージ（情報・広告を表示するディスプレイ）」（17.6%）の順で多くなっている。（SC26S）



■ 上記以外の電車内や駅構内での痴漢被害防止を呼び掛ける動画やポスターなどの認知状況は4割強。

- 上記以外の電車内や駅構内での痴漢被害防止を呼び掛ける動画やポスターなどの認知状況は、全体で「見たことがある」（23.2%）、「見たことがある気がする」（20.9%）と、“見たことがある”とする比率は44.1%となっている。（SC27）



出典：警視庁



出典：東京都交通局